# 令和２年度に係る業務の実績に関する評価結果
# 国立大学法人高知大学

## １ 全体評価

高知大学は、現場主義の精神に立脚し、地域との協働を基盤とした人と環境が調和のとれた安全・安心で持続可能な社会の構築を志向する総合大学として教育研究活動を展開することを目指している。第３期中期目標期間においては、総合的教養教育を基盤に「地域協働」による教育の深化を通して課題解決能力のある専門職業人を養成するとともに、黒潮圏にある豊かな地域特性を生かした多様な学術研究を展開し、地域社会・国際社会の発展に寄与することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、土佐FBC(フードビジネスクリエーター）事業を全学の重点事業に位置付け、学長裁量経費を優先的に配分しマネジメント改革を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

**（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）**

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和２年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　学修成果の蓄積と自分で定めた目標の記録と振り返りを行うために開発したe-ポートフォリオについて、学内システムに説明動画を掲載したことで、１学期の利用率が１年生で99.5%となるなどe-ポートフォリオの活用が進んだ。また、各学部では、学部ごとにカスタマイズした独自機能の活用に取り組み、特に、医学部医学科では学内で実施する臨床実習にe-ポートフォリオを導入し、学生の自己評価及び教員評価の全てをシステム上で実施したことにより、学生の学習の質を保証し、実践的学修と理論的学修の統合が図られた。（ユニット「「地域協働」による教育の質保証」に関する取組）

○　地域協働学部の学年ごとのオリエンテーションの冒頭で地方創生推進士の魅力を伝え、認証取得を推奨するなどの広報活動を行った結果、令和２年度までに「地方創生推進士」として認証された学生が目標の130名を上回る141名となった。地方創生推進士に認証された後も、学生が中心となり、１年生を対象にしたオンライン・ミーティングの開催、学生向けのアンケート調査、困窮学生支援のための農業アルバイト企画等の活動を実践している。また、地方創生推進士に認証された学生が農家等で余ったり規格外になったりした食材を活用する食堂「おすそわけ食堂まど」を９月にオープンし、食品ロス削減及び生産者を応援する地産地消の拠点としてSDGsにも貢献している。（ユニット「産官学の連携による雇用創出等を通じた地域再生・活性化への貢献」に関する取組）

## 2 項目別評価

| ＜評価結果の概況＞ | 特　筆 | 一定の注目事項 | 順　調 | おおむね順調 | 遅れ | 重大な改善事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| （１）業務運営の改善及び効率化 | | | ○ | | | |
| （２）財務内容の改善 | | | ○ | | | |
| （３）自己点検・評価及び情報提供 | | | ○ | | | |
| （４）その他業務運営 | | | ○ | | | |

### 業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載７事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 学長裁量経費によるマネジメント改革

学長裁量経費の配分に当たって、各部局へ配分する予算を一定額留保した上で、トップダウン型の戦略的な学内資源配分（人件費）や部局からの申請によるボトムアップ型の機能強化のための重点分野の取組に活用している。特に土佐FBC(フードビジネスクリエーター）事業については、全学の重点事業に位置付け、学長裁量経費を優先的に配分するとともに、高知県からの寄附講座や地元企業及び県内金融機関からの寄附金・協賛金等も活用し、取組を実施している。

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**課題**がある。

○ 入学者選抜における業務上のミス

令和３年度一般選抜（前期日程）において、業務上のミスがあり、追加合格の措置を実施していることから、チェック体制の見直し等、再発防止に向けた組織的な取組を引き続き実施することが望まれる。

## （２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## （３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載２事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## （４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

共同利用・共同研究拠点

○ 学術コアレポジトリーの公開開始

海洋コア総合研究センターでは、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）、国際深海科学掘削計画（IODP）等の既存のコアキュレーションで扱われないコア試料の保管、二次利用システムの運用を進め、公開可能な保管コア試料の基礎情報（採取地点の緯度、経度、水深等）データベース「学術コアレポジトリー」を整備し、ウェブサイト上での公開を開始している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 寄附講座「医療×VR」学講座の設置

VRデジタル治療薬の薬事承認と臨床基盤の創造、国内外医療分野におけるVR活用のガイドラインの策定、VR空間での基礎・臨床研究を推進するためのプラットフォーム構築の３つの柱を掲げ、民間企業２社からの寄附を受け、「医療×VR」学講座を令和３年３月に設置しており、高知県立大学等の県内他大学の教員も参画するなど、高知県産学官連携も視野に入れ、研究を進めている。

（診療面）

○ 新型コロナウイルス感染症への対応

高知県から新型コロナウイルス感染症に係る重点医療機関の指定を受け、専用病棟（対応病床８床）を設置し、重症患者を中心に受け入れるとともに、高知県からワクチン接種に係る基本型接種機関の指定並びに副反応を疑う症状に対応する専門的な医療機関の指定を受けるなど、新型コロナウイルス感染症の対応を行っている。

（運営面）

○ 新型コロナウイルス感染症に関する啓発活動

地元の放送事業者であるテレビ高知で番組名「明日への備え-新型コロナウイルス-」（全８回のシリーズ）として、診療の手引きに基づいて大学病院の医師が新型コロナウイルス感染症への備えについて解説する番組が作成され、新型コロナウイルス感染症に関する情報や感染予防のために必要なことを解説するなど、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐための情報を地域に向けて発信している。